



ぶどうの枝

2023年
冬号

神様からの愛は自然と隣人に流れていく

千葉キリスト教会 牧師 小濱 守宏

2023年もあっという間！一年を振り返り心に残る出来事を思い巡らしてみました。健康祭り、チャーチコンサート、菜食料理教室、NPO法人ビスケットクラブ主催で教会集会室を利用しての体操教室など、たくさんの方々が教会に足を運んでくださって生きた活動が行えた事を思い出します。何よりも嬉しかったことは、毎週行われている安息日プログラムが中断せずにコロナ感染から守られたことは感謝です。

私は、この記事を書くにあたってイエス様から一つの問いが与えられました。「今年一年、私と共に歩む中で私（イエス）に委ねる決断をし続けましたか？」です。

この問いかけの私の答えは、「神様、私は何をすれば良いですか、あなたの御心を行わせてください。」という祈りではなく、「私は、自分が思う良いことを行い、神様頑張りますのでよろしく願います。」というお祈りであったと気づきました。

この祈りも決して間違いではないと思います。しかし、「もっと私に委ねる生活をしなさい」とイエス様に諭されました。そして、神様は私にルカ10章27節の聖句を与えました。「彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります」です。

ルカ10章27節の元になっている申命記6章4-5節と合わせその意味を調べました。

「心」「精神」「思い」という単語は、どれも同じような言葉の意味で区別が付きに

くのですが、単純すぎるくらい簡潔に申しますと、どれも「全身全霊を持ってイエス様を愛しなさい」という意味です。また、申命記の方では、「聞け」という言葉から始まります。この聖句はユダヤ人たちの日々の祈りに欠かせない聖句です。「聞け」とは、よく聞いて行いなさいと、イエス様は、語っているのです。

自分に当てはめて祈るとするならば、「私は、自分に頼り、物に頼り、隣人に頼り、教会という組織に頼るのでなく、イエス様に頼ります。どうぞあなた様のお考えを教えてください。必要なものは、あなた様がすべて備えてください。そして、前に進みます」という祈りです。

ルカ10章27節の「精神」という言葉の意味の一つに、自分自身の身も心もという意味があります。つまり、全てを主に捧げてという意味です。また「力を尽くして」とありますが、「力」と訳されることもあれば、「富み」と訳することも可能だそうです。ルカ10章27節は、自分自身全てと自分が所有している全てを通して神を愛しなさいと理解することが出来ます。

神様に近づき神様を愛せば愛すほど、どれだけ自分が愛されているのか知ることが出来るのです。

その愛は、自然と私たちの隣人に流れていきます。なぜなら、愛されている喜びは自分に押し留めることはできないのです。

2024年も主の守りの中で大胆に地域へ、そして個々に与えられている宣教地に赴くことが出来ますことお祈りします。

健康祭りを楽しみました

千葉キリスト教会 長老 金田 寛子

2023年11月12日(日)10:30-15:00、教会の1階シャローム若葉を使用させて頂き、健康祭が行われました。当日は天気予報の通り、12月末の気温、そして雨という天候でしたが、祈りのうちに来場なさる方々をお迎えすることができました。世界的な感染症蔓延により対外的な活動を控え、制限しておりましたが、久しぶりの教会活動となりました。近所の方からも「久しぶりですね」と声をかけて頂きました。

外の厳しい寒さとは対照的に館内での様子は和やかで、リラックスした雰囲気にお包まれ、教会員も共に和気あいあいと楽しみながら、健康について考える良い機会となりました。

今回千葉教会で実施したものは、体重測定、体脂肪チェック、血管年齢、ストレスチェック、肺機能簡易測定、管理栄養士仲本桂子さんによる健康相談、ハンドマッサージ、ストレッチ体操実演 光風台三育小学校上谷校長による三育教育機関の紹介、教育相談、三育健康食品の試食と販売、福音社の書籍販売、など多岐にわたりました。

ちなみに私はハンドマッサージを担当させて頂きました。何回か事前に練習しましたが果たしてお客様が喜んでくれるか一抹の不安がありました。しかし皆さんとても喜んでくれ、また施した私も心がいやされていくという不思議な体験が与えられました。顔が一人ひとりちがうように手もまた違います。ユーカリの香りに包まれてマッサージをしながらいろんな手に触れてその人の生きている今に触れることができました。手と手の触れあいを通してお互いの繋がりを感ずることができ、3階での土曜

日の礼拝覗いてみて下さいと声をかけることができました。教会からのコミュニケーションツールとしてとても良い方法ではないかと感じています。

また、三育食品のキーマカレーやリンケッツ、大豆たんぱく料理などおいしかったとの評価をたくさんいただきました。コロナ以降なかなか活動を共にすることができなかった教会員同志のつながりも確認できました。大勢の教会員の奉仕に感謝すると共に、より良い形を模索して継続的に地域に発信していきたいと願っています。

私たちセブンスデー・アドベンチスト教会の創設者のひとりであり、教会の発展に多大な貢献をしたホワイト夫人の著書「教育」には、健康について、こう書かれています。

「人類を創造された神の御目的が実現されるように、人の中に創造主のみかたちを回復し、人を創造当初の完全な姿にもどし、知、徳、体の発達を促す事、これが救済の働きとなるべきであった。これが教育の目的であり、人生の大目的である。」

(E・Gホワイト著「教育」4Pより)



西洋ひばり

行って来ました！「サマーバイブルキャンプ2023」

千葉キリスト教会 児童・青年伝道部 書記 水野 綾子

コロナ禍を経て、今年の夏に児童・青年伝道部で久々に宿泊の計画をたてました。場所は群馬県みなかみ町にある、ハレルヤ山荘というクリスチャンの方が経営している自然豊かな所です。事前に現地に下見に行き、オーナーの方とも色々打ち合わせをしながら、どの様なプログラムにしていいたら良いか、祈りながら準備を進めていました。

しかし、キャンプ1週間前、当日スタッフが全員揃って行けるのかわからないトラブルが起きました。みんなでこの出来事を通してもう一度神様に立ち返り、神様の御心がなります様にと願い祈って迎えた当日の朝・・・、無事に参加者全員で行く事が出来ました！本当に感謝でした！

お天気も、プログラムも守られ、豊かな大自然の中で、祝福された2日間を無事に終えることが出来ました。

その中で特に印象に残ったのが、小濱先生による対話式のお礼拝です。

私達には、コンフォートゾーン(ストレスのない心地良い環境や精神状態のこと)、ラーニングゾーン(学びの領域、自分が経験したことのないことや経験値よりも少しハイレベルな要求があること)、パニックゾーン(混乱の領域、過去の経験が全く通用しないこと)の3つのゾーンがあります。私達は

生きていく中で、コンフォートゾーンからラーニングゾーンに踏み出さなくてはならない時があります。その領域を広げていった経験はありますか？との問いに、一人一人が答えていきました。

その問いの答えにならなくても、思った事、感じた事でもOK。一人の方が、「自分は今土曜日に中々教会に行けていない。たまに行けた時に聞くお説教がいつも自分(家族)にぴったりの事が多い。これからは、土曜日教会に行ける様にしたい。」と涙ながらに話してくれました。聖霊様が働いて下さったと感じ、喜びと感謝で胸がいっぱいになりました。

対話式の礼拝だったからこそ、頂けた恵みだと思います。「参加する一人一人が、神様に会えます様に」とずっと祈ってきた答えを頂きました。本当に嬉しい体験でした。

準備の段階から、当日、帰宅後、自発的に考え様々な奉仕をしてくれた青年部の皆さん、参加して下さった皆さん、祈りをもって支えて下さった教会員の皆さん、そして全てを守り導き祝福して下さいました神様、本当にありがとうございました！

対話式礼拝をする小濱牧師
ハレルヤ山荘の礼拝堂で



キャンプファイアーを
楽しみました



今年も参加しました！「千葉教会音楽祭」

千葉キリスト教会 賛美アフタヌーン 西岡 清子

「賛美アフタヌーン」は千葉教会の敬虔な信徒であられた故吉田広子姉の思いが実を結んだ歌のグループです。

「シャロンの会」の名で安息日礼拝の午後のひと時、ピアノの前に集まって賛美歌や誰もが知っているような懐かしい曲を楽しんでいました。吉田姉は残念ながらしばしの眠りにつかれ、私たち残りの者は小さな群れとして歌いつないできましたが、前任の磯部牧師と、同時期に教会に通われるようになった白鳥俊氏が作詞作曲されたオリジナルの賛美の歌を与えられ歌わせて頂くことが多くなりました。名称も「賛美アフタヌーン」となりました。

素人の集まりですので、お互いに気付いたことを出し合いながら、「もう一度」「もう一回」と練習しています。次第に深められ、心ひとつとなっていく時の喜びは大きなものです。

今年も「千葉教会音楽祭」—千葉県内のキリスト教会が教派を超えてイエス・キリストの愛をともに賛美しようと始まった音楽祭で今回53回を数える—に参加しました。（コロナ禍の影響、高齢化により例年

より少ない8団体が参加。）私たちは「シャロンの会」から受け継ぎ、賛美アフタヌーンとしては48回から参加しています。昨年からは青年の賛美グループ“ブレーメン”とともに歌い奏でることができています。喜び倍増です。

参加曲「立てよいざ立て」「世の終わりのラッパ」の2曲は時にかなった希望のメッセージを伝えることが出来たと思います。

祈るときの私たちの思いを超えて神様の導きがあることを、賛美アフタヌーンを通して教えられています。

賛美をするとき、いつも心に浮かんでくる聖句を引用させていただきます。

「新しい歌を主に歌え。全地よ。主に歌え。主に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。主の栄光を国々の中で語り告げよ。その奇しいわざを、すべての国々の民の中で。」

（詩編96篇1～3節 新改訳）

参加して下さる方、いつでも歓迎いたします！



賛美する、賛美アフタヌーンと“ブレーメン”

楽しく神様を賛美しながら、愛猫「ししやもちゃん」を偲ぶ

千葉キリスト教会 佐藤 育子

「ししやもちゃん」は、息子が、雨の日に車で通りかかった田舎の屋根のある無人販売所にいた3匹の生まれたばかりの猫の一人(?)を連れて帰り、ネコミルクで育てた白い猫です。耳と耳の間に黒いリボンのような模様があり、背中にも黒いところがありましたが、ほとんど白の、目のきれいな猫です。

仕事の都合で息子が引越すことになり、「ししやもちゃん」が私のところにやってきました。

その時から15年間、私と暮らし、一昨年18歳で亡くなりました。

息子は「ししやも」と呼んでいましたが、私は、言いにくかったので、「しいちゃん」と呼んでいました。

「しいちゃん」との二人暮らし(?)は、「しいちゃんオハヨー!、おめめがさめましたー」から始まり、「また明日ねー」で寝るという繰り返しで、一日中私をみている猫でした。

トイレに行こうとすると、狭いのに、「さあどうぞこちらです」と言うように先になってトイレの前まで行き、トイレの前で足をきちんと揃えて、いつも待っていていました。

言葉も分かり、洗濯機の上に乗ろうかどうか考えている時に、「しいちゃん、ピョーン!いいヨ」と言うと、「ピョーン!」と喋って飛びのり、満足そうでした。

抱っこがきらいで、あまり鳴かなくて、呼ぶと、「ニャーン」ではなく「ムム」なんて返事をしていて、何でもよく分かっていたんですねー。可愛かったです。

何時もそばにいて見てくれている人(猫)が居て幸せだったと思いつつ、同時に、年をとっても、こうして毎朝目覚めさせて下さり、周りを美しいもので満たして下さり、養い、つたない祈りを聞いて下さる神様のもとに、穏やかに毎日を過ごさせて頂いていますことを感謝しています。

聖書の学びも楽しく、賛美アフタヌーン、ヘブンズ・コワイヤーに参加させて頂いて、本当に楽しく神様を賛美させて頂いています。

再臨が目前になり、現在、聖書通読を目指しています。

イエス様、来てください!佐藤ししやもちゃんに会えますように。



「主の愛に、生かされて」

千葉キリスト教会 岩崎 久江

私は、千葉県の小見川町（今の香取市）で生まれました。家族は父 母 姉 私 妹です。

小学校の頃 母と教会（日本キリスト教団）に通った記憶があります。母は後にSDA教会員となりました。

高校卒業後、看護師となり、病院で働いている時に結婚し、2人の子供を授かりました。家族は5人。義理の母、主人、私、子供2人です。休む暇なく働く生活でした。

ある時期、教会に通う事ができ、洗礼を受けました。しかし、仕事が忙しくなって自然と教会から離れ、病院も替り月日が過ぎていきました。

そんな中、義理の母が風邪をこじらせ他界しました。しばらくして、長男が自殺をし 啞然として何がおきたのか解かりませんでした。それ以来、ずっと心が癒されませんでした。それで聖書を少し拝読するようになりました。

月日が流れ、働いておりましたが、教会への思いが募り、退職しました。小見川の実家にSDAの牧師さんが来て、聖書研究会が開かれていたので聖書を学ぶために実家に通いました。約1年後の2006年6月16日に森田牧師により洗礼を受けました。心から嬉しかったのを覚えています。

2年位、教会に月1回通いました。2008年に実母が癌になり、南房総市の我が家で通

院、療養生活をする事になりました。亡くなる3ヶ月位前迄の1年半の間、外出したり、絵を描いたり、聖書の学びをしながら、母と一緒に楽しく過ごすことが出来ました。高校生の頃から、自分の親の面倒は見たいと思っていたので、主に感謝でした。

その後 長女に子供3人授かり喜ぶ事が出来ました。孫が3人授かったことで長男を亡くした悲しみも癒されて来ました。

月日が流れ磯部先生（牧師）が我が家にお見えになり、先生の賛美、聖書を学び、涙が溢れ、止まらない事が度々ありました。その時の聖句で「しかし、神を求めないけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれた悔いる心を 神よ、あなたは侮られませぬ。－詩篇51の19（新共同訳）－」という御言葉を頂いた時、心の中が スーッと雲が払われたように温かな空気に包まれ愛する心が湧いてきたのを覚えています。この時、私は、神様から救われたのを確信することが出来ました。

現在は、ラインを通して聖書の学びや交わりをしています。このように便利になった恵みに感謝です。また、家族のために祈り続けています。人間を豊かにするのは主の祝福です。私達を無我の愛で満たしてください。主に切に従いたいと思います。



菜食料理教室（主の食卓を囲んで）

千葉キリスト教会 女性・家庭部 篠田 正子

コロナ禍の影響で休みを余儀なくされていた菜食料理教室も今年は3回行う事が出来、11月6日は最後の教室となりました。今回は三育フーズより、2名の講師をお招きしての会となりました。

何時ものように賛美歌を歌い、お祈りをしてからの講師の方の体験を通してのお話は、聖書の言葉から菜食料理の意義と会社の製品にかける意欲、品質にこだわる誠意も伝わり、認識を新たにす良い機会となりました。

そのお話は、かつて営業たった頃お客様から、「聖書の何処に食生活までこだわるように書いて有るのか」との質問を受け、自分で納得のいく答えをしたくて、真剣に祈った事のお話でした。

祈りは聞かれ、最終的に神様は聖書の中のダニエル書1章の「どうぞしもべらを十日の間ためしてください。わたしたちにただ野菜を与えて食べさせ、水を飲ませ、そしてわたしたちの顔色と、王の食物を食べる若者の顔色とを比べてみて、あなたの見るところにしたがって、しもべらを扱ってください。」とのみ言葉を通して答えを下さった事、聖書に書かれている食生活についての確信を持つ事が出来たとのお話でした。イエス様は心と体を癒して下さい

ました。ダニエルの言葉は、世の終わりに私達人類に重要なメッセージを残しているという事、ダニエルの様に現代こそ健康改革を実践する必要がある事を伝えて下さり、信仰によって人間が節制を足し算で選ぶ時、神様は掛け算で働いて下さいますと結んで下さいました。

その後料理作りが始まり、いつもお忙しい牧師先生も自ら作り手に加わって下さり、いつになく楽しい雰囲気で行われました。

雨の中このところ続けて参加して下さいっている午後の体操教室の方々も、この日は、食事から加わって下さり、出来上がった料理はどれも美味しく、また三育フーズからのお土産も頂いて、思わず皆さんのお顔もほころびました。

参加した教会員から、未信者のご主人の笑顔を見て思わず「ご主人がここに参加して下さいただで本当に嬉しいです」と声を掛けずにはいられなかったと、喜んで話してくれました。

文字通り主の食卓を囲んでの楽しいひと時となりました。終始、丁寧な対応をして下さった講師の方々と神様に心から感謝致します。



出来上がったお料理です



食卓を囲んでの楽しい一時です

賛美は神様への感謝

千葉キリスト教会 コワイヤー 酒井 紀子

2023年10月8日(日)午後1時より第12回チャーチコンサートが千葉教会にて開催されました。

前回のチャーチコンサートと同様に、コロナの感染予防を十分に取りながらの開催となりました。YouTube配信も2回目となり会場ではなく自宅にて視聴して下さった多くの方々がいらっしゃいました。

コンサートは、司会の小濱しのぶさんによる開会のあいさつで始まり、次に千葉教会小濱牧師によるお祈りがあり、演奏がスタートいたしました。

ヘブンズ・コワイヤーは“アヴェ・ヴェルム・コルプス”“丘の上の十字架”など前半4曲、“エホバは我が羊飼い”“ああうれしこの身も”など後半4曲を賛美いたしました。十字架とイエス様の生涯をテーマとした全8曲は、指導者兼ピアノ伴奏者としての森恵子さんのリードのもと、晴れやかな賛美となりました。

メンバー全員の、心の底から歌える喜び、今生きている喜び、神様を喜び感謝する歌声は、教会堂を満たし、聞いて下さる方々に神様の愛を届けることが出来たのではないのでしょうか。

今回久しぶりに参加して下さった高橋共子先生は“主のうしろ姿”など2曲を通して、イエス様の十字架と愛を、心込めて歌いあげて下さいました。

太田香織さんのフルートと森大地さんのチェロで、フランスの香り豊かなファランのフルートトリオを演奏しました。

コワイヤーメンバーによるフルート・デュオ“エホバは我が羊飼い”の演奏につづく、千葉教会元牧師の森田先生と柴田先生の賛美では、お二人の深い信仰を感じる事が出来ました。

船橋教会有志の方々は“与えよ愛をば”を心を一つにして賛美して下さい、青年コワイヤーはアカペラで若々しく美しいハーモニーを披露して下さいました。

最後に、“いつくしみ深き”を会衆一同で賛美し、森田先生のお祈りをもって閉会となりました。音楽を心から楽しむことが出来た一日となりました。

コンサート終了後多くの方々からの励ましのお言葉を頂き有り難うございました。

次回は、12月24日(日)クリスマスコンサートを計画しております。



チャーチ・コンサート終了後の
ヘブンズ・コワイヤーの皆さん

聖書について (その3)

千葉キリスト教会 長老 渡邊 邦男

今回は「新約聖書」についてその概要を見ていきます。(使用する聖書は口語訳)

新約聖書はギリシャ語で書かれ、イエス・キリストの誕生からキリストの昇天、その後の宣教活動での書簡を中心として、紀元後1世紀のキリスト教が確立されて行く時代背景を舞台としています。因みに、紀元後のギリシャ語A.D(Anno Domini)は、「イエス・キリストの年」を意味します。

新約聖書は、キリストの誕生から、宣教活動、病の癒しや奇跡、弟子訓練、十字架による磔刑(はりつけによる死刑)、復活、昇天、に至るイエス・キリストの働きや言動などが書かれた福音書「マタイによる福音書」、「マルコによる福音書」、「ルカによる福音書」、「ヨハネによる福音書」(四福音書)で始まり、続いて、キリストの昇天後弟子たちによる宣教活動が記録された「使徒行伝」、そして21の書簡(手紙)が収められ、最後に「ヨハネの黙示録」によって構成されています。

これらの書簡(手紙)は、キリストの生前からの弟子たちと、復活したイエスによって使徒とされたパウロによって書かれたものです。

生前からの弟子たちについては、マタイによる福音書10章1~4節に次のように紹介されています。

「そこで、イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。十二使徒の名は、次のとおりである。まずペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、それからゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、ピリポとバルトロマイ、トマスと徴税人マタイ、アルパロの子ヤコブとタダイ、熱心党のシモンとイスカリオテのユダ。このユダはイエスを裏切っ

た者である」。この福音書で、弟子たちは使徒と呼ばれていますが、ギリシャ語では主に送り出された者、大使、派遣者という意味です。

イスカリオテのユダはイエスを裏切って自殺したので、その後、弟子たちはマッテヤという人を選び、12使徒を構成しました。

パウロ(紀元後~65年頃)は、キリスト教が普遍的な世界宗教となるうえで大きな働きをしましたが、彼は元々ユダヤ教の熱心な信者で、初期のキリスト教信者への迫害を進めていたのですが、復活したイエスの声を聞いてから悔い改め、キリスト教に改宗し、熱心な布教活動家へと転身し「キリスト教最大の伝道者」と言われるまでになりました。

以下は、パウロの14の書簡です。

「ローマ人への手紙」「コリント人への第一の手紙」「コリント人への第二の手紙」「ガラテヤ人への手紙」「エペソ人への手紙」「ピリピ人への手紙」「コロサイ人への手紙」「テサロニケ人への第一の手紙」「テサロニケ人への第二の手紙」「テモテへの第一の手紙」「テモテへの第二の手紙」「テトスへの手紙」「ピレモンへの手紙」「ヘブル人への手紙」です。

次は、生前から弟子たちによる書簡です。

「ヤコブの手紙」「ペテロの第一の手紙」「ペテロの第二の手紙」「ヨハネの第一の手紙」「ヨハネの第二の手紙」「ヨハネの第三の手紙」「ユダの手紙」の七つの書簡です。

最後に、生前からの弟子で、唯一寿命を全うしたヨハネによって書かれた「ヨハネの黙示録」が収められています。

コロナは落ち着いてきましたが、インフルエンザの感染に注意しています

◇ぶどうの枝2023年冬号は夏号に続き年2回の発行ができました。。コロナは2023年5月レベルにまで落ち着いて来ましたが、インフルエンザの感染状況が厳しく、千葉教会では万全の感染予防対策を継続しつつ、コロナ前に戻す努力をしております。感染予防に協力頂きながら、少しずつ再開される教会の活動にご参加頂きたいと思っております。宜しくお願ひ申し上げます。

◇集会は、感染状況を注視しつつ、徐々に活動を再開しております。活動予定を、都度、千葉教会ホーム・ページにてご案内致しておりますのでご覧の上ご参加ください。ホーム・ページは下記URL (QRコード) からご覧頂けます。また、感染予防から実施しているYouTube同時配信 (礼拝・チャーチコンサート等) は、ホームページに入り該当プログラムのURLをクリック下さい。

定期集会 (開催場所: 千葉キリスト教会 集会室、礼拝堂)

- ◇ 聖書セミナー; 対面とオンラインで行っています。
- * 日時: 毎月、第一・第三水曜日。午前10時~11時30分。
- * テーマ: 「イエスのみ名によって」を研究します。
- * 講師: 千葉キリスト教会 牧師 小濱 守宏
- ◇ 菜食料理教室; 7月3日、9月4日、11月6日 (第一月曜日) 開催しました。まだ定期開催はできませんが、開催の都度、千葉教会ホーム・ページにてご案内します。
- * 次回は2024年1月9日 (月) 午前10時~13時。
- ◇ チャレンジクッキング; まだ定期開催はできませんが、開催の時は、千葉教会ホーム・ページにてご案内します。
- * 対象: 子供の皆様 (小学生以下は保護者の御同伴をお願いします。)
- ◇ チャーチコンサート; 10月8日 (日) は6月11日 (日) に続く開催でした。まだ定期開催はできませんが、都度、千葉教会ホーム・ページにてご案内します。
- * 12月24日 (日) にクリスマスコンサートを予定しております。開催時間は午後1時です。感染予防の観点から、YouTubeによる同時配信を予定しています。



安息日学校 (毎週土曜日)

- ☆賛美礼拝: しばらく中止
- ☆聖書の学び: 午前10:00~10:40

安息日礼拝 (毎週土曜日)

- ☆千葉キリスト教会: 午前11:00~12:00
- ☆シャローム若葉虹の家: 午前9:30~10:10

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後6時及び水曜日朝午前8時30分から祈祷会をしております。

【編集後記】 「ぶどうの枝」2023年冬号をお届けします。未だ、残念ながら年2回の発行です。教会活動が早くコロナ前に戻り、「ぶどうの枝」の季号発行の出来る日を待ち望みます。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り: 3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話: 043(231)3620

FAX: 043(231)1634

Email: sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ:

sda-chiba.org



★発行責任者:

小濱 守宏 牧師

★スタッフ:

酒井 闌 太田 博司

綿引 秀子